

授業科目名	看護技術Ⅲ			担当教員	西山 陽子、山本 孝治	
開講年次	2 年後期	セメスター	4		時間数(単位数)	30 (1)
必修選択	必修	授業形態	演習		使用教室	
授業の目的	健康障害を持った対象者に対して、個別状況に応じた看護技術を習得する。					
到達目標	1) 健康障害（栄養摂取・吸収・代謝、排泄、呼吸・循環、活動）を持ち、看護援助や医療上の処置を必要とする対象者へ、科学的根拠に基づいた適切な看護技術を実施できる。 2) 科学的根拠および目的に応じた観察とアセスメントによる看護判断ができる。 3) 対象者の個別状況と看護技術に伴うリスクを予測した安全確保対策を実施できる。 4) 対象者の特性や状況を考慮し、対象者にとって安楽な方法を選択し実施できる。 5) 看護技術に伴う観察、評価を正確に報告し、記録できる。					
ディプロマポリシーにおける科目の位置づけ	看護技術Ⅰ・Ⅱで学んだ原理原則を基盤に、より侵襲を伴う看護技術を学ぶことで看護技術Ⅳにつながる科目である。対象者の個別状況や看護技術に伴うリスクの予測、看護判断を実施するために、知識と看護技術の実践を結びつけながら学ぶことで「看護の専門性を探求する力」を向上する。また、どのように留意点や実施方法を選択し、状況の異なる対象者の安全・安楽を確保するのか、多角的に考察する力を強化することは「問題解決力」の向上につながる。					
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力	
				○	◎	
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)		取組時間	担当者
1	科目オリエンテーション 食事の看護技術 経管栄養法	演習 (実技)	予習：経管栄養法に関連した人体の構造と機能を学び、経管栄養法手順とポイントをまとめる。 復習：経管栄養法の演習を評価し、手順とポイントを修正・加筆する。		40 分	山本
2						
3	呼吸循環を整える看護技術 酸素吸入療法 吸引（口腔・鼻腔・気管内）	演習 (実技)	予習：呼吸に関する人体の構造と機能を復習し、酸素吸入療法、一時的吸引の手順と留意点、観察（アセスメントの視点と項目）をまとめる。 復習：演習を振り返り、手順とポイントを修正・加筆する。		60 分	西山
4						
5	創傷管理技術 創傷のアセスメント・処置 褥瘡予防	講義 演習 (実技)	予習：創傷の治癒過程および創傷の管理技術、褥瘡の発生機序と予防のための看護技術について学ぶ。 復習：演習を振り返り、創傷処置と管理の手順とポイントをまとめる。		60 分	ゲスト スピーカー
6						
7	排泄の看護技術 導尿（一時的・持続的）	演習 (実技)	予習：看護技術Ⅱで学んだ無菌操作の原理原則の見直し、導尿（一時的・留置）の手順と留意点、観察（アセスメントの視点と項目）をまとめる。 手順の根拠には、人体の構造と機能を関連づけてまとめる。 復習：予習でまとめたものに演習の評価、手順とポイントを修正・加筆する。 技術練習を計画的に実施。		40 分	西山
8						

9	排泄の看護技術 浣腸、坐薬 / 導尿	演習 (実技)	予習：排便に関連する人体の構造と機能を学び、浣腸、坐薬の与薬方法手順とポイントをまとめる。 導尿について、不確かな部分を演習で確認できるよう準備する。 復習：演習の評価、手順とポイントを修正・加筆する。導尿の技術練習の予定を立て実施する。	90 分	山本 西山
10					
11	技術確認：一時的導尿	演習 (実技)	予習：一時的導尿の手順を振り返り、安全と安楽を確保して行えるよう技術練習を行う。 復習：教員からのフィードバックを振り返り、理解が不十分な部分はテキスト、講義資料、教員に確認する。	90 分	西山 山本
12					
13	症状・生体機能管理技術 血糖測定 インスリン自己注射	演習 (実技)	予習：インスリン分泌に関する人体の構造と機能について学び、血糖測定とインスリン自己注射の手順とポイントをまとめる。 復習：それぞれの演習を評価し、手順とポイントを修正・加筆する。	60 分	山本
14					
15	科目全体のまとめ 各技術の要点と手順の振り返りを行う。	講義	予習：各技術のポイントを振り返り、疑問点について調べる。	60 分	西山 山本
先行履修科目					
テキスト		任 和子他：系統看護学講座 専門分野 1 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ 第 17 版、医学書院、2017.			
参考文献		Gerard J. Totoro, Bryan Derrickson : Introduction to the Human Body (10th). 2014, 佐伯 由香, 細谷 安彦, 高橋 研一, 桑木 共之 編訳：トートラ人体解剖生理学 原著 10 版, 丸善出版, 2017. 川村雅文他：系統看護学講座 専門 2 成人看護学 [2] 呼吸器 第 14 版, 医学書院, 2015. 松田明子他：系統看護学講座 専門 2 成人看護学 [5] 消化器 第 14 版, 医学書院, 2015. 吉岡成人他：系統看護学講座 専門 2 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 第 14 版, 医学書院, 2015. 河邊博史他：系統看護学講座 専門 2 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 第 14 版, 医学書院, 2015.			
評価方法		筆記試験 (50%)、技術試験 (10%)、事前学習 (30%)、授業態度 (10%) で総合的に評価する。			
教員等の実務経験		臨床で看護師として様々な対象者へ看護技術を実践した経験を持つ教員が担当する。			
メッセージ		看護技術Ⅰ・Ⅱで行った自己学習をこの科目でも継続してください。自己学習のポイントは、解剖・生理、疾病の成り立ち、治療検査時の看護、看護技術Ⅰ・Ⅱなどの知識を用いて対象者の個別状況を分析し、どのような配慮が必要か考えることです。技術の手順・留意点も解剖生理学的な背景と、どう関係しているか考えながらまとめるようにすると理解しやすくなります。演習は、グループダイナミクスを意識し、周囲と協力する姿勢で、意見を交換しながら共に学びを深めていきましょう。慢性看護実習も視野に入れてステップアップを目指してください。			